

# 知事対談

鳥越俊太郎×仁坂吉伸

フリージャーナリスト

和歌山県知事

# 思いやりの心がつむぐ 和歌山とトルコの絆

博愛の気持ちが人と人を結び 慈しみの気持ちが国と国を結んだ  
2つの歴史的事件からひも解く文化交流  
海洋国家 和歌山の風土と厚意を重んじるトルコが生んだ友情物語。

トルコが放つ救いの翼  
テヘラン空港救出劇とは

**仁坂知事(以下仁坂)** ●今日は和歌山とトルコの友情の物語についてお聞きしたいと思えます。鳥越さんは以前、トルコと串本の絆の物語を紹介するテレビ番組に出演されましたよね。その物語の重要な一幕であるテヘラン空港救出劇※1の際、鳥越さんはまさ

に現地で取材しておられたとか。

**鳥越俊太郎氏(以下鳥越)** ●そうです。当時、私は新聞社の特派員としてテヘランにいました。そして緊迫感が高まる中、突然イラクが「イラン領空を飛ぶ航空機は全て撃ち落とす」という声明を出し、外国の飛行機がイラン領空を飛べなくなりました。身の危険を感じたテヘラン在住の外国人は、急ぎ海外へ脱出して行きました。数百人いた日

本人もチケットを購入し、搭乗手続きをしようとしていた矢先、日本人は搭乗を断られてしまったんです。チケットさえ購入すればこの国の飛行機にでも乗れると思っていましたから、愕然としましたね。タイムリミットが迫る中、日本人だけが脱出できないままと

り残され、恐怖で右往左往していました。追いつめられて「危険を覚悟で陸路で脱出するしかない」という話にまでなっていた時、トル

コ航空の救援機がテヘランに到着したんです。その時は、なぜトルコの救援機が我々を救う為に危険を冒してまで来てくれたのかわかりませんでした。その後、エルトゥール号※2の話聞き、そうだったのかと感動しましたね。

**仁坂** ●なるほど。鳥越さんたちもその時、一緒に脱出されたんですか？

**鳥越** ●いいえ。ほとんどの日本人はテヘランから脱出しましたが、私たち報道陣は残りませんでした。命がけて原稿を書いて送っていたんです。昼も夜も戦闘機のミグが飛んで来て爆弾を落としていく戦場にいる訳ですから、い

つ巻き込まれるかと恐ろしかったことを記憶しています。

**仁坂** ●本当に危険な中で取材をなさっていたんですね。実はトルコでは、先ほど鳥越さんがおっしゃった明治時代に起きたエルトゥール号事件の事が今も教科書に記述されていて、多くのトルコ国民はこの話を知っていたんです。オスマン帝国はコンスタンティノープル(現イスタンブール)を征服した頃は無敵だったんですが、その後、国力が弱って行く中、西洋列強でない東洋の日本と親交を結ぼうとオスマン帝国の国民の期待を背負ってエルトゥール号は日本を目指した訳

です。しかしその帰途、和歌山の串本で沈没するという悲劇が起こってしまう。

**鳥越** ●なるほど。その時、串本の人たちが懸命に救助活動をしたと聞きましたが。

**仁坂** ●そうですね。島民たちは全力で救助に当たり、米や鶏などの食糧を提供し、寒さに震えるエルトゥール号の乗組員を自らの体温で温め、彼らの生命の回復に努めたそうです。後にオスマン帝国が当時治療に当たった医師に治療費を補償するという話になったのですが、医師たちは「自分達は、当然のことをしたまでだ。補償等の必要はない。そのようなお金があるならば、犠牲となつて

※1テヘラン空港救出劇/イラン・イラク戦争中、邦人脱出のため、日本の航空機が飛べなかったイラン領空を、トルコ航空が救援機を飛ばし、日本人を安全に海外へと脱出させた出来事。 ※2エルトゥール号遭難事件/1890年9月16日夜半、オスマン帝国アブデュル・ハミド2世の命を受けて来日した軍艦エルトゥール号が和歌山県大島の檜野埼にほど近い場所で遭難した事件。死者587人、生存者69人の大海難事故。現在、和歌山県串本町の檜野埼灯台のそばには「エルトゥール号殉難将士慰霊碑」およびトルコ記念館が立つ。また串本町と在日トルコ大使館の共催による慰霊祭も5年ごとに行われている。

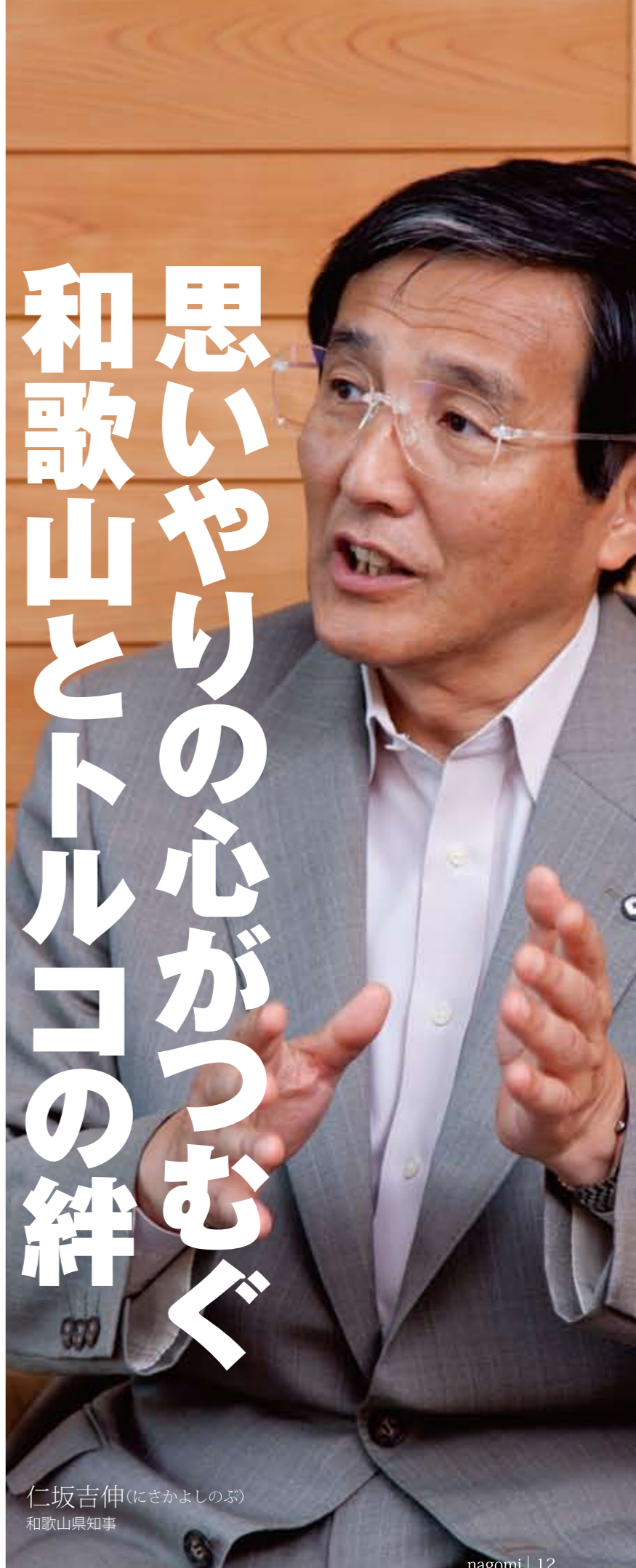


トルコ国内で使われている教科書。エルトゥール号についての記述が見られる。



鳥越 俊太郎(とりごえ しゅんたろう)  
福岡県出身。1940年3月13日生まれ  
ジャーナリスト・ニュースキャスター

仁坂吉伸(にさかよしのぶ)  
和歌山県知事





# 知事対談

鳥越俊太郎 × 仁坂吉伸  
フリージャーナリスト 和歌山県知事



亡くなられたトルコ将兵の遺族にあげてほしい」と告げたそうです。私は感激屋なもので、この話をすると自分で感動して涙ぐんでしまうんです。トルコ国民は日本人でさえ忘れかけていたその歴史を、百年近くも覚えていてくれた。そして、今こそ「恩返し」の時だと考え、救援機を飛ばしてくれたのだと思います。今度は日本人がそのテヘランの恩を忘れず語り継いでいかなければいけないと思いますね。

**鳥越** ● そうなんですか。素晴らしい話ですね。今の日本人に聞かせたい話です。和歌山県は海洋民族国家だったからそれができたのではないのでしょうか。昔から様々な価値観や文化に触れ、排他的になることなく、それを受け入れる。自国に向かつてではなく、世界に対して、目を向ける気質があった。まさしく海洋民族だからなんでしょうね。

## 誰をも受け入れる 和歌山気質

**仁坂** ● 和歌山には特徴的な二つの側面があるんです。一つは霊験あらたかな熊野三山という地域性です。昔から熊野三山は上皇や貴族、庶民などから篤い信仰を集めていました。生命力に満ちている神秘的な森があり、そこへ行くと蘇るんじゃないかと思うぐらいの神聖なパワースポットエリアなんです。そしてもう一つは住民気質。巡礼者をはじめ誰をも受け入れる住民気質です。この二つが絶妙に調和、融合してい



るんです。だからこそ「蟻の熊野詣」と呼ばれる程、熊野三山への巡礼は長く親しまれたんだと思うんです。もうひとつ面白いエピソードがあります。徐福伝説です。徐福は秦の始皇帝から「不老不死の薬を持ち帰れ」と命を受け新宮まで来たんですが、和歌山の誰でもウエルカムな気質が気に入って、帰国せずそのまま住み着いてしまったというものです。徐福も居心地がよかったですよね(笑)。

**鳥越** ● 日本は単一民族国家という訳ではないですが、大多数は日本民族ですよ。同じような価値観や文化、風習を共有している。だからこそ異なる文化を受け入れにくいところがあります。日本は、もっと世界に目を向けて、異なった価値観、文化を持っている人と交流をして行かなければならない。そういった意味では和歌山は先進的な民族だったんでしょうね。

**仁坂** ● ところが和歌山県民というのは意外と

シャイというか、奥手というか、自己アピールがあまり得意じゃないんです。何でも受け入れ、それを上手く自分のものとして取り入れ、更に創意工夫し新しいモノを創るのが得意な素晴らしい県民性なんですがね。

## 受け入れ、そして新たに 創造する和歌山の力

**仁坂** ● 和歌山は和食の原点である鰯節、醤油、味噌の発祥の地でもあります。鰯の一本釣りも高知が有名ですが実は和歌山から伝わったものなんです。

**鳥越** ● みかんや梅も有名ですがそれは凄いですね。日本食と言うより、日本人の心の故郷というか、おふくろの味の原点じゃないですか。

**仁坂** ● そうなんです。先進的な事を考える土壌はあるんですが、隠し事をしないと、切な技術も独り占めしない県民性なんですよ。和歌山の人って大切な事でもすぐに教えちゃうんです。伝わった地域では初めの何十年間は和歌山のことを語り継いでくれますが、しばらくすると、なんとなく忘れられてしまいます。「はじめは和歌山」というものは、実は結構多いんですよ。私は和歌山をもっとアピールして「後々も和歌山」で行きたいと考えています。

**鳥越** ● なるほど。和歌山の人って大らかな気質なんですよ(笑)。他にも世界で初めて全身麻酔手術を成功させた華岡青洲※3という有

名なお医者さんいましたよ。

**仁坂** ● 良くご存知ですね。医聖と呼ばれる和歌山が誇る偉人の一人です。今年が青洲生誕250周年ということで、沢山の人が知ってもらいたいと思っています。

**仁坂** ● 偉人と言えば、6月3日トルコ建国の父、初代大統領ムスタファ・ケマル・アタテュルクの騎馬像が、新潟県から日・土友好の始まりの地である串本町大島に移設され、記念式典が行われました。トルコ国内でその様子がテレビで放映され、トルコの人たちは大変感動されたそうです。これでまた良い関係が深まったのかなと喜んでます。こうした二つの積み重ねが、時代を超えて固い友好の絆となっていくのだと思います。

**鳥越** ● それこそが文化の交流なのでしょうね。そういう意味ではトルコと和歌山は本当に良い関係ですね。なんだかうらやましいな(笑)。実は大島には何度も行った事があるんです。檜野埼灯台にも上りました。素晴らしい所ですよ。

**仁坂** ● そうでしょう。私も和歌山の明るいリアス式海岸が好きなんです。串本の海にはラムサール条約登録湿地として認定された世界最北の珊瑚群集がありますし、他にも、様々な自然が残っているんですよ。

**鳥越** ● 私も以前は大阪の岸和田という所に住んでいたんで、子供を連れて新宮とか熊野とかの観光地によく行きました。

**仁坂** ● そうですか。近所だったんですね。  
**鳥越** ● 和歌山といえば明るい南国というイ



華岡青洲

メージで、温泉もあり、料理も旨いし。豊かな自然を守っていて、海も山もある県。本当に風光明媚なところだ。

**仁坂** ● 昔は電車の旅が主流でしたから、他所と比べて不便でもなかったですし、さらにもっと昔は、和歌山沿岸部は海上輸送と言う面において、海的高速道路と呼べるものでした。大阪と江戸を結ぶ当時の最大の幹線交通路が和歌山の沖を通っていたのですからね。沿岸はその寄港地として相当繁栄していたんですよ。高速道路の時代になって、他所に比べてハンドを負うようになっています。

**鳥越** ● なるほど。まさしく目の前に広がる海を利用して発展した海洋国家だったんですね。

**仁坂** ● 今も和歌山には昔の様に発展する材料はたくさん揃っていますから、私は今こそ和歌山県人が元々持っている先取の気質をフル活用して積極的にチャレンジしていく時代だと考えています。

**鳥越** ● がんばってください。期待しています。  
**仁坂** ● 本日は貴重なお話をありがとうございました。

※3華岡青洲 / (1760年～1835年)世界で初めての全身麻酔による乳ガン摘出手術に成功した医聖。紀州藩主の徳川治宝に侍医として招聘されるも、公職に就くと一般患者の治療が出来なくなると一旦は辞退した。その後、再度の要請により公職につき、城内には住まず一般患者の診療を続けたと言う。彼の偉業は青洲の里で知ることができる。青洲の里 電話 / 0736-75-6008 住所 / 紀の川市西野山473 開館時間 / 10:00～17:00 (入館は16:30まで) <http://seishu.sakura.ne.jp/>